

第四回星野立子賞受賞句集

『櫻 翳』 三十句抄

藺草 慶子

枯れすすむなり夢違観世音  
ゆるがほや永劫は何待つ時間  
ゆきずりの障子ともりぬ親鸞忌  
屑金魚花の如くにあつまりぬ  
風花の散りこむ螺鈿尽しの間  
魂まつり向う岸まで雨見えて  
水に浮く椿のまはりはじめたる  
炎抱きかかへ燈籠流しけり  
枝先のふるへつつ花満つるかな  
叡山やみるみる上がる盆の月  
花影のうへをはなびらさばしれる  
鳴きだせば蝸の木のとほざかる  
降りしきる落花に舟を返しけり  
月光に蝕まれゆくごとく座す  
拭けど拭けど鏡に桜頭はるる  
鶏頭の離ればなれに倒れけり  
花の翳すべて逢ふべく逢ひし人  
わが身より狐火の立ちのぼるとは  
十人の僧立ち上がる牡丹かな  
吾もまた誰かの夢か草水柱  
青嵐や死者ことごとく吾を統ぶ  
火の映る胸の釦やクリスマス  
青嵐うねりていのち揺れもどる  
枯木立光の方へ歩きなさい  
形代のわが名に雨の落ちはじめ  
寒卵ひところがり戦争へ  
白日傘振り向けばみな遠き景  
寒紅梅晩年に恋のこしおく  
自らの蕊に汚れて百合ひらく  
いづこへもいのちつらなる冬泉